

地震

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- ◆頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する。
- ◆あわてて外へ飛び出さない。
- ◆大きな揺れの場合は、揺れがおさまってから火の始末をする。



1~2分

揺れがおさまったら

- ◆火元を確認 火が出たら、落ちていて初期消火。
- ◆家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認。
- ◆靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく。
- ◆避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機などに注意。
- ◆津波などの危険が予想される地域はすぐ避難。



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- ◆災害弱者の安全確保 隣近所で助け合う。
- ◆行方不明者はいないか。
- ◆ケガ人はいないか。

出火防止 初期消火

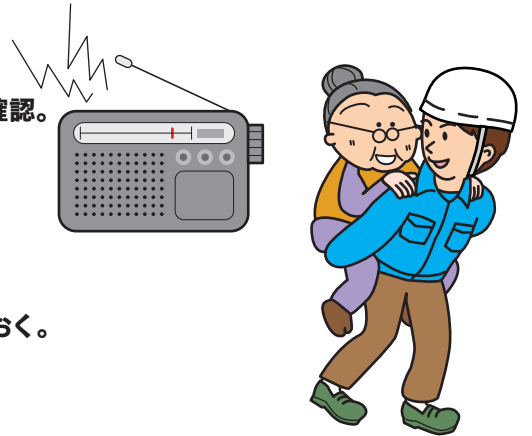
- ◆初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく。
- ◆漏電・ガス漏れに注意。
- ◆電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める。
- ◆余震に注意。

3分

5分

ラジオなどで正しい情報を得る

- ◆大声で知らせる。
- ◆救出・救護を。
- ◆防災機関、自主防災組織の情報を確認。
- ◆デマにまどわされないように。
- ◆避難時に車は極力使用しない。
- ◆電話は緊急連絡を優先する。



10分

数時間

3日

協力して消火活動、救出・救護活動

- ◆水、食料は蓄えているものでまかなう。3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく。
- ◆災害・被害情報の収集。
- ◆無理はやめよう。
- ◆助け合いの心が大切。
- ◆壊れた家に入らない。



屋内にいた場合

家の中

- ◆揺れを感じたら、身の安全を確保し、揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保する。
- ◆火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- ◆乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- ◆裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

集合住宅

- ◆ドアや窓を開けて避難口を確保する。避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



デパート・スーパー

- ◆カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

劇場・ホール

- ◆カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- ◆あわてずに冷静な行動をとる。

屋外にいた場合

路上

- ◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ◆近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- ◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ◆ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ◆揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ◆避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- ◆高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。



電車などの車内

- ◆つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ◆途中で止まっても、非常ロックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- ◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

